

令和5年（2023）7月26日

奈良国立博物館

第75回 正倉院展

The 75th Annual
Exhibition of Shōsō-in Treasures

報道発表資料

[1] 主 催 奈良国立博物館

特別協力 読売新聞社

協 賛 岩谷産業、印傳屋上原勇七、SGC、NTT西日本、関西電気保安協会、
京都美術工芸大学、近畿日本鉄道、JR東海、JR西日本、シオノギヘルスケア、
ダイキン工業、ダイセル、大和ハウス工業、中西金属工業、丸一鋼管、大和農園

協 力 NHK奈良放送局、奈良交通、奈良テレビ放送、日本香堂、仏教美術協会、読売テレビ

[2] 会 期 令和5年（2023）10月28日（土）～11月13日（月）

会期中無休

開館時間 **午前8時～午後6時** ※例年とは異なります。

金・土・日曜日、祝日は午後8時まで

※入館は閉館の60分前まで

[3] 会 場 奈良国立博物館 東新館・西新館

[4] 観覧料金 **※観覧には原則、事前予約制の「日時指定券」の購入が必要です（無料対象の方を除く）。**

予定販売枚数に達し次第、販売を終了します。

奈良国立博物館観覧券売場での販売はありません。

詳細は〔別紙〕をご覧ください。

[5] 出陳件数 出陳宝物 59件（北倉9件、中倉24件、南倉23件、聖語蔵3件）

うち6件は初出陳

※出陳宝物一覧は別紙

[6] 展覧内容

正倉院宝物は、東大寺の重要な資財を保管する倉であった正倉院正倉に伝來した宝物群です。正倉院展では、およそ9000件にも上る正倉院宝物の中から毎年60件前後が公開されます。75回目の開催となる本年も、調度品、楽器、服飾品、仏具、文書といった正倉院宝物の全体像がうかがえるラインナップで、宝物の魅力を余すことなく伝えます。

正倉院宝物の歴史は、天平勝宝8歳（756）6月21日、聖武天皇の四十九日である七七忌に際して光明皇后が天皇遺愛の品を大仏に献納したことにはじまります。献納された品々は、そのときに作成された献納品のリスト『国家珍宝帳』に記載され、正倉院宝物の中核に位置付けられています。本年はその中から、『国家珍宝帳』の筆頭に記載される「九条刺納樹皮色袈裟」（刺し子縫いの袈裟）をはじめ、「漫背八角鏡」（無地の花形鏡）や「鳥草夾纈屏風」（板じめ染めの屏風）などが出陳されます。中でも袈裟は、聖武天皇の仏教への篤い信仰を象徴する品として、正倉院宝物を代表する屈指の名宝です。

正倉院には、奈良時代に宮廷や寺院内で使われた楽器や調度品のほか、貴人たちのアクセサリーなども伝わっています。「楓蘇芳染螺鈿槽琵琶」（螺鈿飾りの四絃琵琶）は、槽に施されたきらびやかな螺鈿の装飾が目を惹く一方、撥受けには中国・盛唐期の画風にもとづく山水画が描かれ、奈良時代の異国趣味を濃厚に示しています。「平螺鈿背円鏡」（螺鈿飾りの鏡）や「銀平脱鏡箱」（鏡の箱）、「斑犀把漆鞘黄金葛形珠玉莊刀子」（腰帯から下げた小刀）といった品々にも、螺鈿・金銀・珠玉類など高級な素材が惜しげもなく使われています。これらの宝物を通して、奈良時代の貴人たちの異国情緒あふれる華やかな暮らしぶりが垣間見られます。

東大寺など大寺院を飾った多彩な仏具類も見逃せません。「碧地金銀絵箱」（花鳥文様の脚付き箱）は明るい青の色彩が目にも鮮やかな品ですが、一方で「刻彫梧桐金銀絵花形合子」（花形のふたもの）といった花葉の生き生きとした彫刻に目を見張る品もあり、正倉院の仏具の多様な装飾表現をご覧いただくことができます。また、東大寺初代別当をつとめた良弁（689～773）の1250年御遠忌にあたる本年、良弁自ら署名した文書を含む「正倉院古文書正集 第七巻」（少僧都良弁牒ほか）が出陳されることも注目されます。そのほか、道教思想にもとづく仙薬の容器ともいわれる「青斑石鼈合子」（スッポン形のふたもの）などを通じ、奈良時代の信仰世界の奥行きと広がりにも触れていただけます。

正倉院では、長い歴史の中で残片となったものも大切に守り継がれてきました。正倉院事務所による最新の研究成果では、「漆六角厨子残欠」（厨子の部材）のそれぞれのパーツの特定が試みられ、長六角形の平面をもつ奈良時代の厨子の当初の姿が浮かび上がってきました。本年は、こうした厨子や正倉院の塵芥文書の復元研究の成果を通し、宝物が織り成す歴史のロマンを体感していただきたいと思います。

[7] 主な出陳宝物

北倉1	九条刺納樹皮色袈裟 (刺し子縫いの袈裟)	1領
北倉16	犀角杯 (サイの角のさかづき)	1口
北倉44	鳥草夾纈屏風 (板じめ染めの屏風)	2扇
中倉15	正倉院古文書正集 第七巻 [少僧都良弁牒、法師道鏡牒ほか] (良弁や道鏡らにまつわる文書)	1巻
中倉50	青斑石鼈合子 (スッポン形のふたもの)	1合
中倉131	斑犀把漆鞘黄金葛形珠玉莊刀子 (腰帯から下げた小刀)	1口
中倉151	碧地金銀絵箱 (花鳥文様の脚付き箱)	1合
中倉202	漆六角厨子残欠 (厨子の部材)	一括
中倉204	漆六角厨子基趾粹 (厨子の部材)	1枚
南倉36	刻彫梧桐金銀絵花形合子 (花形のふたもの)	1合
南倉54	紫檀小架 (台付きの架け具)	1基
南倉70	平螺鈿背円鏡 (螺鈿飾りの鏡)	1面
南倉101	楓蘇芳染螺鈿槽琵琶 (螺鈿飾りの四絃琵琶)	1面
南倉180	赤地鷺鷺唐草文錦大幡脚端飾 (幡の下端につけた飾り)	1枚

主な出陳宝物 解説

※単位は、寸法＝センチメートル、重量＝グラム

※写真提供＝宮内庁正倉院事務所

[出陳番号1]

北倉1

九条刺納樹皮色袈裟 (刺し子縫いの袈裟) 1領

前回出陳年＝平成11年 (1999)

幅253 縦147

聖武天皇遺愛の品を東大寺大仏に納めた際の目録『国家珍宝帳』の筆頭に掲げられた袈裟。その存在は仏教を篤く信奉した聖武天皇を象徴しており、まさに天平期における国家最高の宝物と言える。「刺納」とは刺し子縫いのことで、黄や緑、縹や赤紫に染められた絹の断片が細かに縫われている。これはぼろ裂を集めて袈裟にする「糞掃衣」の伝統に則ったもので、あたかも樹木の皮のような風合いを見せるため、特に「樹皮色」と称された。



[出陳番号6]

北倉16

犀角杯 (サイの角のさかづき) 1口

前回出陳年＝平成24年 (2012)

長径15.5 短径8.4 高5.0 重76.8

サイの角の内部を割り抜いて作られたさかづき。茶褐色に白い斑が混じる色調から、インドイッカクサイの角を用いていると推定されている。素材の質感を活かした美しい器肌や、口縁部を花弁形に作った優美な器形が賞される。なお、『国家珍宝帳』には2口の犀角杯が記載されるが、これらは平安時代に出蔵されたことが「雜物出入継文」 [出陳番号4] からわかり、今日では本品とは別物と考える説もある。



[出陳番号9]

北倉44

鳥草夾纈屏風 (板じめ染めの屏風) 第3・4扇 2扇

前回出陳年 = [第3扇] 平成2年 (1990) · [第4扇] 平成22年 (2010)

[第3扇] 長149.0 幅54.0 本地長143.0 幅47.0

[第4扇] 長148.7 幅56.0 本地長142.4 幅48.7

『国家珍宝帳』に記載される10組の「鳥草夾纈屏風」の一部にあたるもの。いずれも草花と尾長鳥を大きく表し、上方に遠山や蝶、下方に草花・鳥・蝶や岩を配す。2扇は表現が異なり、それぞれ別の屏風をなしていたとみられる。夾纈は、図柄を彫り出した板で裂地を挟んで染め上げる技法であり、本品では二つ折りの裂地を染めることで左右対称の図様を表している。中国・盛唐期に流行した花鳥画屏風の姿を伝える貴重な品である。



第3扇



第4扇

[出陳番号 37]

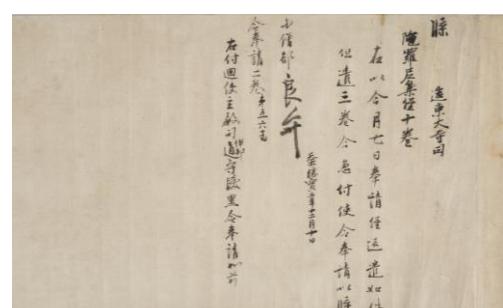
中倉15

正倉院古文書正集 第七巻 [少僧都良弁牒、法師道鏡牒ほか] (良弁や道鏡らにまつわる文書)

1巻

前回出陳年 = 平成22年 (2010)

9通の文書を継いで1巻としたもので、東大寺初代別当となつた良弁 (689~773) が署名する文書や、道鏡 (?~772) の自筆文書が含まれる。良弁の署名は堂々とした筆運びに風格が感じられる。道鏡は称徳天皇に重用された僧侶で、法王という史上例のない高い地位を与えられ、天皇の仏教政策を推し進めた。写経事業に関する命令を自筆の文書で伝えており、力強い筆跡が目を引く。



[出陳番号41]

中倉50

青斑石鼈合子 (スッポン形のふたもの) 1合

前回出陳年 = 平成22年 (2010)

長15.0 高3.5

鼈 (スッポン) の形をした合子。蛇紋岩製で鼈の形を彫り出して蓋として、腹の部分に八稜形の皿が収まるようになっている。鼈の両眼は深紅色の琥珀をはめ込んでいる。突き出た口先や爪の長い四肢、柔らかみのある甲羅の表現



は写実的で、動物彫刻としても優れている。甲羅には、北斗七星を反転した形が金と銀で描かれている。鼈のような亀類や北斗七星は古来より神聖視されることから、仙薬を入れる容器だったとする説もある。

[出陳番号19]

中倉131

斑犀把漆鞘黄金葛形珠玉莊刀子 (腰帯から下げた小刀) 1口

前回出陳年 = 平成5年 (1993)

全長38.5 把長15.9 鞘長27.2 身長15.8 茎長5.1

刀子は、紙を切ったり、木簡に書かれた文字を削り取ったりする小刀であるが、腰帯から下げて身を飾る佩飾品でもあった。正倉院には聖武天皇のご遺愛品をはじめ、貴人が東大寺に献納したとみられる刀子が数多く伝わっている。本品はその中でも大型に属する品で、把には犀角を用い、鞘は木製で漆塗を施し、把や鞘は金製の金具で飾られる。把は屈曲せず、刀身は刃先が刃側にやや俯いた形状 (筈反) を呈するなど、一般的な刀子とは異なる特色をもつ。



[出陳番号28]

中倉151

碧地金銀絵箱 (花鳥文様の脚付き箱) 1合

前回出陳年 = 平成23年 (2011)

縦27.9 横17.5 高10.6

床脚を付け、箱内に内張 (覗) (綿入りのクッション) を付した箱。外面は明るい碧色 (青色) の地に金泥と銀泥で花枝をくわえた鳥や蝶を描き、蘇芳色 (暗い紫色) の縁に金色の小花文をあしらう。内張りには花や鳥を織り表した錦を用いる。華やかに装飾された本品は、仏への献物を納めるべく用いられたのであろう。底裏に「千手堂」と墨書きがあり、東大寺千手堂 (現存せず) のものであったことがわかる。正倉院に伝わる本品によって、失われた堂宇の莊厳をうかがい知ることができる。



[出陳番号25-1、2]

中倉202

漆六角厨子残欠 (厨子の部材) 一括

中倉204

漆六角厨子基趾棒 (厨子の部材) 1枚

初出陳

現存部の復元高155 屋根復元幅220 框幅164 柱高131

厨子は仏像や経典などを安置するための扉付きの仏具で、本品は奈良時代に製作された厨子の部材が伝わったもの。今回出陳される漆金銀絵仏龕扉 [出陳番号26] と本来は一連の部材であり、平面が長六角形で、屋根が付いた形の厨子を構成していた。正倉院事務所による最新の研究成果によって、屋根や軒の形状の特徴が明らかになるなど、厨子の当初の姿が一層明瞭な形で復元された。遺例の乏しい奈良時代の厨子の形態を知る上で、注目される品である。



漆六角厨子基趾棒



参考：漆金銀絵仏龕扉

[出陳番号26]

[出陳番号32]

南倉36

刻彫梧桐金銀繪花形合子 (花形のふたもの) 1合

前回出陳年 = 平成17年 (2005)

長径31.9 短径18.8 総高11.5

散孔材の一木を削り抜いて作られた長楕円形の蓋付き容器。

蓋・身ともに宝相華の形を立体的に表し、細部を金泥や銀泥で描く。同形の合子は正倉院に5合分が伝わるが、蓋・身が揃うものは本品のみ。身の背面中央に「戒壇」の墨書銘があり、東大寺戒壇院に伝わったことが分かる。かつては環孔材の梧桐 (アオギリ) 製と考えられていたが、昭和の木材材質調査において、樹種は不明ながら環孔材ではないことが判明している。



[出陳番号33]

南倉54

紫檀小架 (台付きの架け具) 1基

前回出陳年 = 平成24年 (2012)

高46.3 台長29.3

小型の架け具。横長六角形で床脚の付いた基台の上にシタン製の鳥居形を立て、鳥居形の柱の前後に上下各一对の象牙製の鉤形突起を取り付ける。基台はカキ材製で天板上面の中央部分にシタンの板を貼り、周囲に金箔を押した上に薄い玳瑁を貼り重ねる。基台の側面は象牙の界線で十の区画に分け、各区画内には紺・紅で染め分けて四弁花文を表した象牙の板を置き、周囲を木画で囲むなど、高級材を贅沢に用いた逸品である。用途については筆置きや鏡台のほか、掛軸など巻物状のものを架けた可能性が指摘される。



[出陳番号23]

南倉70

平螺鈿背円鏡 (螺鈿飾りの鏡) 1面

前回出陳年 = 平成21年 (2009)

径39.3 縁厚0.9 重5410

背面を螺鈿（貝殻片で文様を表す装飾技法）によって華やかに飾った大型の銅鏡。ヤコウガイと琥珀で花文様を表し、地の部分は細かく碎いたトルコ石を散りばめるなど、大変豪華なつくりである。正倉院には螺鈿飾りの鏡が北倉・南倉合わせて9面伝わるが、本鏡はその中でも大型で、デザイン性も高い優品。唐（中国）製と推定され、各地の珍しい材を用い、高度な技術を尽くして仕上げられた、歴史上最高峰の鏡の一つ。



[出陳番号 10]

南倉101

楓蘇芳染螺鈿槽琵琶 (螺鈿飾りの四絃琵琶) 1面

前回出陳年 = 平成16年 (2004)

全長97.0 最大幅40.5

美しく装飾された琵琶で、「東大寺」との刻銘がある。槽（背面）はカエデ材を蘇芳色（暗い紫色）に染め、白色の貝や玳瑁を切り抜いて嵌め込み、宝相華や鳥、雲の文様を表して飾る。撥で絃を弾く部分には動物の皮が貼られ、白色を塗り込めた上で絵画が描かれる。図柄は、奥行きある風景の前方に、白象の上で奏樂し舞踊する胡人を表すもので、盛唐絵画表現を示す伝世品として高く評価される。



[出陳番号46]

南倉180

赤地鷺鷺唐草文錦 大幡 脚端飾 (幡の下端につけた飾り) 1枚

前回出陳年=平成24年 (2012)

縦39.7 横46.3

天平勝宝9歳（757）、前年に崩御した聖武天皇の一周忌斎会が當まれた。本作はこの儀式に用いられた灌頂幡という旗から下がる幡脚の下端につけられていた飾りである。この灌頂幡は復元すると全長約15メートルという長大なもので、本品は幡脚の端につけられた飾りと言っても実に大きい。正倉院に伝わる脚端飾には様々な錦がふんだんに使われており、この赤地の錦では蓮華唐草に乗る一対のオシドリが華麗に表されている。



[8] 普及事業

公開講座

① 10月28日（土）「宝物に込められた祈り－転輪聖王としての聖武天皇－」
三田 覚之 [奈良国立博物館学芸部主任研究員]

② 11月4日（土）「正倉院文書の復原－いわゆる「常陸国戸籍」について－」
三野 拓也氏 [宮内庁正倉院事務所保存課調査室員]

③ 11月11日（土）「正倉院の箱を観る」
伊藤 旭人 [奈良国立博物館学芸部研究員]

【時間】13:30～15:00（13:00開場）

【会場】奈良国立博物館 講堂

【定員】各180名（事前申込抽選制） 座席自由

【料金】聴講無料（展覧会観覧券等の提示は不要です）

【応募期間】9月27日（水）～10月10日（火）

【応募方法】当館ウェブサイト「講座・催し物」→「公開講座」申込フォームより必要事項をご入力の上、お申し込みください。

【参加証の送付】当選者には、10月16日（月）までに参加証（当選メール）をお送りいたします。メールの画面、または印刷したものを当日必ずご提示ください。

【ご注意】

- ・今回の応募方法は、WEB申し込みに限ります。
- ・応募はお1人様1回でお願いいたします。
- ・ご本人様以外の入場はできません。
- ・お預かりした個人情報は、本公開講座の連絡のみに使用します。
- ・参加証で正倉院展展示室に入場することはできません。
- ・正倉院展展示室への入場は時間指定制です。講座の受講に関わらず、指定時間外の入場はできませんので、予めご注意ください。

[別紙] 観覧料金

一般	2,000円
高大生	1,500円
小中生	500円
キャンパスメンバーズ学生	400円
レイト割 一般	1,500円
レイト割 高大生	1,000円
レイト割 小中生	無料
研究員レクチャー付き観覧券	詳細は奈良国立博物館ウェブサイト等で 決まり次第お知らせいたします。
VR「正倉院 時を超える想い」 特別上演会付き観覧券 (主催: 奈良国立博物館、凸版印刷)	詳細は奈良国立博物館ウェブサイト等で 決まり次第お知らせいたします。

※レイト割は月～木曜日は午後4時以降、金・土・日曜日、祝日は午後5時以降の「日時指定券」に適用されます。

観覧には原則、事前予約制の「日時指定券」の購入が必要です（無料対象の方を除く）。

なお、「日時指定券」は当日各時間枠開始時刻まで販売いたします。また、当館観覧券売場での販売はありません。

日時指定券の購入方法

販売開始日時 10月5日（木）午前10時

- * ローソンチケット [Lコード：59995] [インターネット (<https://l-tike.com/75shosoin-ten/>)、
ローソン各店舗、ミニストップ各店舗]
- * CNプレイガイド [電話（自動音声）による受付のみ ※詳細は後日発表します]
- * 展覧会オンラインチケット <https://www.e-tix.jp/shosoin-ten/>

※障害者手帳またはミライロID（スマートフォン向け障害者手帳アプリ）をお持ちの方（介護者1名を含む）、未就学児、レイト割（小中生）、奈良博メンバーシップ・プレミアムカード会員の方（1回目及び2回目の観覧）、贊助会会員（奈良博、京博、東博「シルバー会員を除く」、九博）、特別支援者は無料。

※**無料対象の方は、「日時指定券」の購入は不要です。証明書等をご提示ください（小中生以下は不要）。**

※キャンパスメンバーズ会員の学生は、奈良国立博物館と連携する特定の大学等に属する学生のみが対象となります。当日会場入り口で学生証の提示が必要です。提示いただけない場合には、差額をお支払いいただきます。キャンパスメンバーズ会員校等は、奈良国立博物館ウェブページ (<https://www.narahaku.go.jp/members/campus/>) でご確認ください。

キャンパスメンバーズの学生が誤って通常料金で「日時指定券」を購入した場合も、払い戻し等はできませんのでご注意ください。

※「日時指定券」の変更、キャンセル、払い戻し、再発行はいたしません。

入館・観覧に関して

- ・ 指定された日時以外の入館はできません。
- ・ 館内の状況により、指定された入館時間より早くご案内する場合や、お待ちいただく場合があります。
- ・ **各時間枠開始直後は、混雑が予想されますので、少し遅れてのご入館をおすすめいたします。**
- ・ 本展は入替制ではありません。
- ・ 本展の「日時指定券」で、名品展（なら仏像館・青銅器館）もご覧になれます。
- ・ 当館に駐車場はございません。お車でのご来館はご遠慮願います。

お問い合わせ

奈良国立博物館 Nara National Museum

〒630-8213 奈良市登大路町50 (奈良公園内)

電話 ハローダイヤル 050-5542-8600

奈良国立博物館ウェブサイト <https://www.narahaku.go.jp/>

正倉院展ホームページ <https://shosoin-ten.jp/>

〈交通案内〉

近鉄奈良駅下車徒歩約15分。

またはJR奈良・近鉄奈良駅から市内循環バス外回り「氷室神社・国立博物館」下車すぐ

広報用画像・記事掲載に関するお問い合わせ

第75回正倉院展 広報事務局 (株式会社ミューズ・ピーアール)

担当：大山、藤巻

info@musepr.co.jp

電話 090-1849-2184

オンラインリリース

<https://www.artpr.jp/prs/2023shosoin>

【画像掲載にあたってのお願い】

- 正倉院宝物の画像は、宮内庁正倉院事務所より奈良国立博物館で開催する「第75回 正倉院展」の広報用として使用許可を頂いているものです。展覧会紹介の原稿作成以外には使用しないでください。
- 画像をご使用の際は、原稿の中に必ず、
 - ①展覧会名「第75回 正倉院展」、②会場名「奈良国立博物館」、③会期「10月28日～11月13日」、④「宝物名」を明記してください。
- 宝物は、全図で使用してください。改変、部分変更、文字のせはできません。
- 使用後はデータを破棄または消去してください。
- WEBへの掲載は展覧会会期中までとしてください。会期終了後はデータを削除してください。
- ご掲載いただいた場合、掲載紙・誌、または媒体（DVD等）をお送りください。
- 写真提供者を表示する場合は、「宮内庁正倉院事務所」と記してください。

報道発表資料に関するお問い合わせ

奈良国立博物館 学芸部情報サービス室
電話 0742-22-4463 FAX 0742-22-7221

[奈良国立博物館プレスリリース配信について]
下記にご登録いただくと、プレスリリースなどの情報を随時配信いたします。

登録URL

https://e.bme.jp/bm/p/f/tf.php?id=narahaku_pr&task=regist

